

看護師国家試験

パーフェクト!

必修

National Examination for Nurse 2021

問題対策 2021

目指せ
パーフェクト
必修満点!

出題基準 269 の
小項目をぜんぶドリル化!!

穴埋め
ドリル

知識を整理

+

過去 17 年分の
必修問題を精選掲載!

過去
問題 + 予想
問題

実戦練習!



巻末特別付録の模擬試験は
50題 × 2回分 = 100題!

メヂカルフレンド社

必修問題対策を始めるみなさんへ

みなさんご存じのように、看護師国家試験には必修問題が設けられており、過去の実例から、8割以上正解することが合格の必須条件となっています。“8割以上”と聞くと、とても厳しい条件のようにも感じられますが、必修問題では看護師として必要なごく基本的な知識が問われるのです。

とはいっても、いざ対策に取り組もうとすると、「いったい何から手をつけたらいいのか……」「授業も実習も忙しいし……」と、困ってしまうかもしれません。

そんなみなさんにお勧めしたいのが、本書『パーフェクト！ 必修問題対策2021』です。

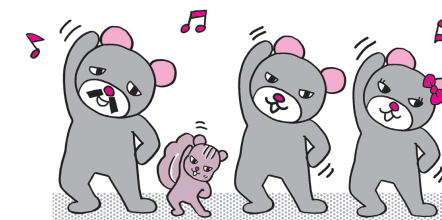
本書は、看護師国家試験出題基準のうち必修問題に該当する269の小項目ごとに【知識の確認ドリル+過去問題・予想問題】で構成しています。知識の確認をしながらコツコツと対策を進めていきたい方にも、とにかく問題の数をこなしたい方にも、お勧めの必修対策問題集です。

これまでたくわえてきた知識を、本書でさらに確実なものにして、出題のポイントをつかみ、8割といわず、満点（パーフェクト！）がとれるよう、ぜひトレーニングを重ねてください。

第110回看護師国家試験の当日まで、みなさんが本書をおおいに活用して有意義な学習ができるよう、心から応援しています。

2020年4月

メヂカルフレンド社編集部



編集 **メヂカルフレンド社編集部**

編集協力 **フラピエかおり** 株式会社 Nurse Style Biz 代表取締役

表紙デザイン／STUDIO DUNK 本文デザイン／タクトシステム株式会社 イラスト／北原功、さとうかおり、イオジン

この本の特長と使い方 ~必修問題、満点を目指そう!

なんで、パーフェクト?

- 第93回~第109回の過去17年分の必修問題を精選して掲載!
- 17年分の必修過去問題が載っているから、出題傾向をつかみやすい!
- 過去問題の徹底分析をもとに、出題基準269の小項目をぜんぶドリル化!
- 左が「ドリル」で右が「問題」! 見開き完結で見やすい! 勉強しやすい!
- 「ドリル」⇔「問題」を繰り返せば、知識が定着! 実戦にも強くなる!
- 統計の問題は、すべて第110回対応にデータを更新! ムダな問題は一つもない!

ドリルで知識を確認したら 過去問題&予想問題で知識が定着しているかチェック!

- 🌸 ドリルで得た知識が、本番ではどのように問われるか(出題パターン)がわかる!
- 🌸 過去問題&予想問題が解けなくても、左のドリルに戻ればすぐに知識の確認ができる!

- 1 出題基準^{※1}の大項目、中項目、小項目に準拠しています。
- 2 ドリルの解答は左端に掲載。答えが見えてしまうのがイヤな人は、赤シートを活用するか、最初に折り返しておくことをおすすめします。
- 3 チェックボックスを活用すれば、対策がさらに効果的に! 活用法は右のページをご覧ください。
- 4 過去17年の必修問題の分析から、何度も出題されている頻出項目に付いています。
- 5 「必修問題の過去問」「一般問題の過去問^{※2}」「予想問題」の判別が一目でわかる! 🐻必修 🐻一般 🐻予想
- 6 例: 93回AM 6 = 第93回の午前6問目の問題。
統計の問題や類似問題などで一部改変した問題は「改」としています。
- 7 問題の解答・解説は同じページの下部に掲載しています。

※1 平成30年版の出題基準に則っています。第106回以前の問題も、平成30年版の出題基準に準じるよう配列しています。
※2 出題基準と出題内容を照らし合わせ、一般問題からも必要な問題を一部セレクトしています。

あなたはどのタイプ?

タイプ別 パーフェクト! 活用術

A~Cの3タイプのうち、あなたに近いのはどのタイプ?
自分の性格や目的に合った活用方法で、必修対策の効率アップ!

タイプA

- ✔ いつもの勉強スタイルはコツコツ型。必修対策もコツコツ進めたい!
- ✔ 自分だけのオリジナル必修マイノートを作りたい!

STEP 1

左ページのドリルに、色ペン(オレンジ色や薄めのピンク色がオススメ)で解答をひたすら書き込んでいく。ドリルを読んで考えながらも、解答を見てただ穴埋めするだけでも、どちらでもOK。

STEP 2

STEP1で埋めた解答を赤シートで隠して、覚える。目で追っただけでは覚えられない人は、ノートやプリント類のウラ紙にひたすら書く! 書く! 書く!

STEP 3

ドリルをひととおり終えたら、右ページの問題を解く。知識が定着しているか力試ししてみよう。解けなかった問題やあやふやだった問題は、左ページのドリルに戻って知識の確認を忘れずに!

タイプB

- ✔ 正直めんどくさがり。だけど、必修対策はきちんとやっておきたい!
- ✔ 必修問題、実はあまり自信がありません……!

STEP 1

まずは左ページのドリルを解いてみよう。解答は赤シートで隠すor折り返しておくでgood! “余裕がない!”という人は、穴埋めは省略しても大丈夫。

STEP 2

わからなかったところを中心に、ドリルの答え合わせをしよう。どうしても覚えられないところは、ノートやプリント類のウラ紙に書き出すと覚えやすいかも!

STEP 3

ドリルをひととおり終えたら、右ページの問題を解く。知識が定着しているか力試ししてみよう。解けなかった問題やあやふやだった問題は、左ページのドリルに戻って知識の確認を忘れずに!

STEP 4

知識がきちんと定着するまで、STEP1~STEP3を繰り返そう。

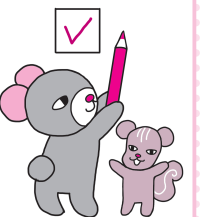
これで必修対策はパーフェクト!

見開きごと、大項目ごと、章ごとなど、自分が集中しやすい分量で区切って取り組んでみてください。

とっておき! チェックボックス 活用法

- ✔ チェックボックスを活用して、マイ苦手リストを作っておけば、自分のニガテが一目でわかる!

“できなかった問題”に☑を入れながら繰り返し解いていけば、自分の苦手・弱点が一目でわかるマイ苦手リストのできあがり! 試験前には、自分の苦手・弱点、つまりチェックがたくさん入っている問題を中心に見直せば、効率よく復習できます。最終確認もどんどん進むから、直前になって“あれもこれも”と焦ることがなくて安心です!



必修問題って、なに？ どんな傾向があるの？

必修問題って、どんな問題？

→ **基本的な内容を問う問題で、50題出題されます。**

必修問題は、「看護師として免許をもつにふさわしい**最低限度の知識と臨床能力**を有しているかを評価すること」を目的に、第93回試験(2004年実施)から導入されました。基本的かつ重要な事項が「看護師国家試験出題基準」に基づいて出題されています。

出題数は**50題**ですが、全240題のうち、どの問題が必修問題であるかは明示されていません。ただし、第98～109回試験では、午前問題・午後問題それぞれの冒頭に半分ずつ配列されていました。ですから、みなさんが受験する第110回でも午前・午後の冒頭に25題ずつ、必修問題が配列される可能性が高いといえます。

評価方法は？

→ **8割以上が合格ライン。**

50題中40題以上正解が、国試合格の必須条件です。

必修問題は**絶対基準**で評価されます。絶対基準とは、問題の難易度や受験生の出来・不出来にかかわらず、ある一定の基準(現状では**8割以上**)を合格ラインと定めている、ということです。50題中8割に当たる40題を正解していないと、一般問題や状況設定問題がどれだけできていても不合格となってしまいます。

こんなことを聞くと、“大丈夫かな……”と不安になってしまったかもしれません。しかし前述のとおり、必修問題で問われるのはごく基本的な内容です。過度に恐れることはありません。とはいえ油断は禁物です！ 自信をもって着実に確実に得点できるよう、対策を進めていきましょう。

これまでの必修問題の出題数

試験回数(実施年)	午前 問題番号	午後 問題番号	合計問題数 (合格基準)
第93～97回(2004～2008年)	1～30	なし	30題 (8割:24題)
第98回(2009年)	1～15	1～15	
第99回(2010年)			
第100回(2011年)			
第101回(2012年)			
第102回(2013年)			
第103回(2014年)			
第103回追加(2014年)	1～25	1～25	50題 (8割:40題)
第104回(2015年)			
第105回(2016年)			
第106回(2017年)			
第107回(2018年)			
第108回(2019年)			
第109回(2020年)			



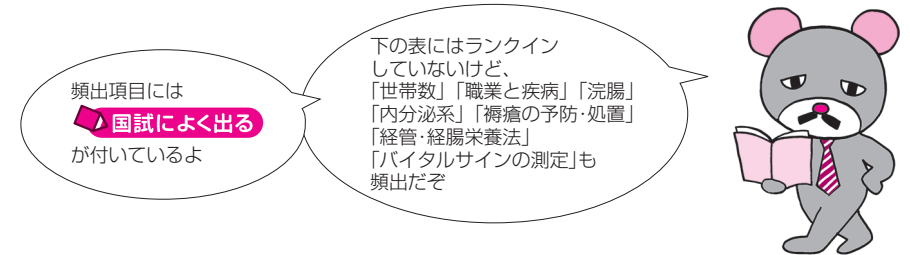
どんな傾向がある？ どこに注目すればいい？

→ **過去に何度も繰り返し出題されているテーマは要チェック！**

過去の一般問題が必修問題として出題されることも。

第93回試験から、**プール制**(蓄積した過去の試験問題のなかから出題すること)が導入されており、これまでに多くの過去問題が再び出題されてきています。必修問題でも、テーマ別にみていくと、繰り返し出題されている問題が複数あります。下表に、第93回から第109回までの17年間で、何度も出題された問題をテーマ別にリストアップしていますので、ぜひ参考にしてみてください。

また、過去に一般問題として出題された問題が必修問題として再び出題されることもありますので、情報として補記しておきます。このような場合も、難易度としては必修レベルのもので、きちんと準備をしておけば、恐れることはありません。



過去17年間の必修問題 頻出項目(編集部調べ)

登場頻度	該当する 出題基準*の項目 (大項目-中項目-小項目)	出題内容	出題回数、問題番号
16回	感染症 (11-B-c)	感染症の各疾患の特徴、 感染経路など	93AM17、93AM18、94AM17、96AM19、 96AM20、97AM20、98PM9、99PM15、 100AM13、101PM15、102PM14、103PM15、 106PM15、106PM16、107PM14、108AM15
13回	妊娠・分娩・産褥の 経過 (10-A-o)	正常産、分娩の経過、産 褥の経過など	93AM12、94AM7、96AM7、96AM14、 98PM6、99PM11、100PM12、102AM11、 103追AM9、104AM5、104AM11、105AM6、 106AM25
13回	与薬方法 (16-B-a)	服薬の指示、与薬方法、 薬液量の計算、薬効発現 速度、注射法など	94AM28、96AM27、97AM27、98PM14、 99AM23、100AM19、101PM22、103追 AM24、105AM21、105AM22、106AM16、 107AM22、109AM23
12回	生活習慣病 (11-B-a)	生活習慣病の各疾患の特 徴など	93AM16、94AM16、95AM16、95AM21、 97AM3、99AM15、101PM14、102AM22、 103AM14、103追AM8、105AM15、105AM23
12回	人間と欲求 (6-A-a、6-A-b)	人間の欲求、マズローの 基本的欲求階層論など	93AM6、95AM5、96AM6、97AM6、100PM6、 101AM6、 103追AM24、104PM5、107PM25、108PM6、 109PM17
11回	死因の概要 (1-B-h)	死因順位、悪性新生物の 死亡率など	95AM1、96AM3、97AM1、99AM1、100AM6、 101AM23、102AM8、103PM1、104PM2、 108AM2、109AM1
10回	禁忌 (12-B-a)	各疾患の禁忌など	93AM19、97AM22、98AM11、99AM17、 100PM18、103追PM17、104AM17、 107PM15、107PM16、108PM16
10回	標準予防策(スタン ダードプリコー ション) (15-C-a)	スタンダードプリコー ションの対象など	94AM26、96AM28、98PM13、101AM25、 102AM18、105PM20、103追AM18、 106PM10、107PM19、109PM21

*第93～106回の問題も、平成30年版の出題基準に沿って分類しています。

Contents



目標 I 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う

1 健康の定義と理解 2	練習問題 15
A. 健康の定義 2	やせの割合
a 世界保健機関 (WHO) の定義	肥満者の割合
b ウェルネスの概念	糖尿病有病者
B. 健康に関する指標 2	食塩摂取量
a 総人口	二次予防
b 年齢別人口	運動習慣
c 労働人口	f 喫煙、嗜好品
d 将来推計人口	g ストレス
練習問題 3	h メンタルヘルス
世界保健機関 (WHO) の定義	i ライフスタイル
総人口	j 性行動 17
人口年齢区分	練習問題 17
生産年齢人口	喫煙者率
老年人口	喫煙と健康障害
将来推計人口	喫煙指数
e 世帯数 3	禁煙
f 婚姻、家族形態	飲酒に起因する健康障害
g 出生と死亡の動向	性感感染症
練習問題 5	B. 生活環境 18
世帯構造数	a 水質、大気、土壌
65歳以上の者のいる世帯	b 食品衛生
出生の動向	c 住環境
15~49歳女性の年齢別出生率の総和	練習問題 19
合計特殊出生率	循環式浴槽の水質汚染
年齢階級別出生率	二酸化硫黄
h 死因の概要 7	食中毒
練習問題 7	食品安全対策
死亡数	シックハウス症候群
死因順位	C. 社会環境 20
部位別悪性新生物死亡数	a 職業と疾病
i 平均余命、平均寿命 9	b 労働環境、雇用形態
練習問題 9	c ワーク・ライフ・バランス
年齢別死因順位	d 母性保護
悪性新生物死亡率	練習問題 21
自殺の動機	業務上疾病
平均寿命	じん肺
C. 受療状況 10	労働基準法
a 有訴者の状況	労働安全衛生法
b 有病率、罹患率	男女雇用機会均等法
c 受療行動、受療率	3 看護で活用する社会保障 22
練習問題 11	A. 医療保険制度の基本 22
有訴者率	a 医療保険の種類
有訴者の症状	b 国民皆保険
児童の疾病・異常被患率	c 国民医療費
入院受療率	練習問題 23
外来受療率	医療保険
d 入院期間 13	医療保険の保険者
練習問題 13	自己負担割合
通院者率	国民皆保険制度
平均在院日数	国民医療費
2 健康に影響する要因 14	1人当たり国民医療費
A. 生活行動・習慣 14	d 高齢者医療制度 25
a 食事と栄養	e 給付の内容 25
b 排泄	練習問題 25
c 活動と運動、レクリエーション	後期高齢者
d 休息と睡眠	後期高齢者医療制度
e 清潔と衣生活	医療給付

B. 介護保険制度の基本 26	d 誠実、忠誠
a 保険者	e 無危害
b 被保険者	C. 看護師等の役割 32
c 給付の内容	a 説明責任
練習問題 27	b 倫理的配慮
介護保険制度	c 権利擁護 (アドボカシー)
介護保険の被保険者	d エンパワメント
介護保険の給付	練習問題 33
予防給付	倫理原則
d 要介護・要支援の認定 29	看護師の倫理綱領
e 地域支援事業 29	患者の権利の支援
練習問題 29	アドボカシー
要介護認定	5 看護に関わる基本的法律 34
要介護区分の審査判定	A. 保健師助産師看護師法 34
支給限度基準額	a 保健師助産師看護師の定義
介護支援専門員	b 保健師助産師看護師の業務
介護保険法	練習問題 35
4 看護における倫理 30	欠格事由
A. 基本的人権の擁護 30	看護師の免許取消し
a 個人の尊厳	看護師の業務
b 患者の権利	c 保健師助産師看護師の義務 37
c 自己決定権と患者の意思	練習問題 37
d インフォームド・コンセント	看護師の義務
e ノーマライゼーション	業務従事者届
f 情報管理 (個人情報保護)	看護師の行動
練習問題 31	新人看護師の臨床研修実施の努力義務
患者の意思	B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律 38
患者の自己決定	a 基本方針
インフォームドコンセント	b ナースセンター
ヘルシンキ宣言	練習問題 39
社会的弱者の基本的権利	看護師等の人材確保の促進に関する法律
すべての人が差別なく生活できる社会	看護職員の就業状況
B. 倫理原則 32	看護職員の就業者数
a 自律尊重	都道府県ナースセンター
b 善行	目標 I 確認テスト 40
c 公正、正義	目標 II 看護の対象および看護活動の場と看護の機能について基本的な知識を問う
6 人間の特性 46	a 形態的発達と異常 51
A. 人間と欲求 46	練習問題 51
a 基本的欲求	肺サーファクタント
b 社会的欲求	ダウン症候群
練習問題 47	先天異常
患者の欲求	伴性劣性遺伝病
安全の欲求	胎児期の異常
社会的欲求	B. 新生児・乳児期 52
自己実現の欲求	a 発達の原則
マズローの基本的欲求階層論	b 身体の発達
B. 対象の特性 48	練習問題 53
a QOL	臨界期
b ニーズ	原始反射
c 健康や疾病に対する意識	乳児の体重増加
d 疾病・障害の受容	低出生体重児
練習問題 49	乳児期の呼吸
QOL	カウプ指数
健康の概念	c 運動能力の発達 53
患者への対応	d 栄養
スピリチュアルな苦痛	e 親子関係 55
フィクスの危機モデル	関連項目 先天免疫と獲得免疫 55
7 人間のライフサイクル各期の特徴と生活 50	練習問題 55
A. 胎児期 50	乳児の発達
	日本版デンバー式発達スクリーニング検査
	免疫グロブリン

母乳栄養		a 家族関係	
C. 幼児期	56	b 家族構成員	
a 身体の発育		c 疾病が患者・家族に与える心理・社会的影響	
b 運動能力の発達		練習問題	69
c 言語の発達		家族関係	
d 社会性の発達		家族の機能	
練習問題	57	家族の世帯構造	
乳 菌		核家族世帯	
大泉門の閉鎖		単独世帯	
小児の脳重量		平均世帯人数	
幼児期の呼吸の型		介護者の続柄	
2歳児の行動発達		B. 家族形態の変化	70
言語の発達		a 家族の多様性	
e 基本的な生活習慣の確立		b 構成員の変化	
練習問題	59	練習問題	71
情緒・社会性の発達		介護ストレス	
基本的な生活習慣の確立		家族の障害受容	
発達遅滞		家族形態の変化	
発達課題		9 主な看護活動の場と看護の機能	72
D. 学童期	60	A. 看護活動の場と機能	72
a 運動能力の発達、体力の特徴		a 病院	
b 社会性の発達		b 診療所	
c 学習に基づく行動		c 助産所	
練習問題	61	d 訪問看護ステーション	
学童期の発育		練習問題	73
学童期の肥満予防		病院の定義	
学童期の思考		医療提供施設の種類	
学習に基づく行動		看護職員の配置基準	
E. 思春期	62	診療所の定義	
a 第二次性徴		e 介護保険施設	
b アイデンティティの確立		練習問題	75
c 親からの自立		訪問看護ステーション事業	
d 異性への関心		訪問看護ステーションの管理者	
練習問題	63	訪問看護を行う職種	
二次性徴		介護老人保健施設	
初経を発生させるホルモン		要介護者のための施設	
二次性徴に関与するホルモン		f 地域包括支援センター	
思春期の特徴		g 市町村	
親に対する行動		h 保健所	
思春期の感情の特徴		練習問題	77
F. 成人期	64	地域包括支援センター	
a 社会的責任と役割		市町村保健センターの業務	
b 生殖機能の成熟と衰退		i 学 校	
c 基礎代謝の変化		j 企 業	
練習問題	65	練習問題	79
青年期の発達課題		保健所の事業	
更年期障害とホルモン		保健所の業務	
更年期の女性		保健所の設置主体	
閉経とホルモン		地域保健業務	
閉経年齢		B. 看護の機能と役割	80
向老期の特徴		a 訪問看護	
成人期の基礎代謝量		b チーム医療	
G. 老年期	66	練習問題	81
a 身体的機能の変化		医療関連職種	
b 認知能力の変化		チーム医療	
c 心理社会的変化		治療・ケアの計画書	
練習問題	67	クリニカルパス	
加齢による変化		c 退院調整	
高齢者の歩行の特徴		d 入院のオリエンテーション（入院相談）	
老年期の身体的な特徴		e 地域医療連携	
老年期の変化		f 家族との調整	
知識を統合して対処する能力		練習問題	83
老年期の認知能力の変化		看護師の役割	
8 看護の対象としての患者と家族	68	チーム医療	
A. 家族の機能	68	レスパイトケア	
目標II 確認テスト	84		



看護に必要な人体の構造と機能および健康障害と回復について 基本的な知識を問う

10 人体の構造と機能	90	肝臓の機能	
A. 人体の基本的な構造と正常な機能	90	胆汁の作用	
a 内部環境の恒常性		肝臓で合成される物質	
b 神経系		肝臓の栄養血管	
練習問題	91	j 栄養と代謝系	
フィードバック機構		k 泌尿器系	
正のフィードバック機構		練習問題	113
サーカディアンリズム		エネルギー量	
神経伝達物質		基礎代謝	
言語中枢		腎機能の指標	
中枢神経系		腎臓の機能	
小脳の機能		腎 臓	
交感神経		l 体温調節	
c 運動系		練習問題	115
練習問題	95	レニン	
脳神経		膀胱の容量	
交感神経の緊張		体温調節中枢	
副交感神経の作用		熱放散	
椎 骨		m 内分泌系	
上肢の骨		練習問題	117
d 感覚器系		体温の調節機構	
練習問題	97	ホルモン	
股関節の運動		内分泌器官	
不随意筋		外分泌器官	
関節の種類		内分泌腺	
e 循環器系		n 性と生殖器系	
練習問題	99	練習問題	119
血液循環		ホルモン分泌	
ペースメーカー		下垂体ホルモン	
f 血液、体液		甲状腺機能検査	
練習問題	101	男性生殖器	
胎児循環		精子形成	
血液凝固		性染色体	
酸素化ヘモグロビン		染色体と性分化	
血球の寿命		o 妊娠・分娩・産褥の経過	
白血球の働き		練習問題	123
血小板の機能		受精卵の着床部位	
食食を行う細胞		受精から着床開始までの期間	
成人の体内水分量		妊娠の診断	
高齢者の体内水分量		分娩予定日	
細胞内外のイオン組成		正常産	
成人の体液の割合		胎盤の完成	
g 免疫系		胎児心拍数	
練習問題	105	分娩の三要素	
免疫担当細胞		胎 位	
体液性免疫		分娩の正常な経過	
血液中の抗体		分娩第2期	
h 呼吸器系		分娩時に分泌充進するホルモン	
練習問題	107	p 遺 伝	
母乳中の免疫グロブリン		練習問題	127
気管支		産褥の経過	
呼吸器の構造		悪 露	
呼 息		産褥期の子宮収縮促進	
呼 吸		乳汁分泌	
i 消化器系		子宮収縮	
練習問題	109	B. 人間の死	128
1 回換気量		a 死の三徴候	
嚥 下		b 死亡判定	
吸 収		c 脳 死	
糖質分解酵素		d 死の受容	
タンパク質分解酵素		練習問題	129
消化酵素		死の三徴候	
栄養素と消化酵素		脳死判定基準	
胃液のpH		死にゆく人の心理過程	

11 疾患と徴候	130
A. 主要な症状と徴候	130
a 意識障害	
b ショック	
練習問題	131
意識障害	
せん妄	
出血性ショック	
アレルギー反応によるショック	
心原性ショック	
ショック時の体位	
c 高体温、低体温	
d 脱水	
練習問題	133
低体温	
発熱	
脱水	
高齢者の脱水	
e 黄疸	
f 頭痛	
練習問題	135
黄疸	
黄疸の観察部位	
黄疸の症状	
溶血性黄疸	
頭痛の原因	
g 咳嗽、喀痰	
h 吐血、咯血	
練習問題	137
乾性咳嗽	
咳嗽を伴う疾患	
喀痰	
胃潰瘍患者の吐血	
吐血の特徴	
咯血	
i チアノーゼ	
j 呼吸困難	
練習問題	139
チアノーゼ	
呼吸困難	
k 胸痛	
l 不整脈	
練習問題	141
胸痛	
右季肋部の痙攣発作	
致死性不整脈	
電氣的除細動の適応	
不整脈	
m 腹痛、腹部膨満	
n 悪心、嘔吐	
o 下痢	
練習問題	143
徐脈性不整脈	
空腹時の腹痛	
マックバーナー点の圧痛	
腹部膨満	
嘔吐	
嘔吐直後の対応	
吐物の色	
p 便秘	
q 下血	
r 乏尿、無尿、頻尿、多尿	
練習問題	145
下痢	
弛緩性便秘	
下血	
乏尿	
無尿	

s 浮腫	
t 貧血	
練習問題	147
尿の回数異常	
全身性浮腫	
浮腫	
貧血	
u 睡眠障害	
v 感覚過敏・鈍麻	
w 運動麻痺	
練習問題	149
鉄欠乏性貧血	
ビタミンの欠乏と貧血	
睡眠障害	
睡眠障害の看護	
表在感覚の受容器	
感覚障害	
x けいれん	
y 気分(感情)障害	
練習問題	151
運動麻痺	
けいれん発作	
躁状態	
B. 主要な疾患による健康障害と基本的な回復過程	152
a 生活習慣病	
練習問題	153
生活習慣病	
虚血性心疾患	
労作性狭心症	
心筋梗塞	
高血圧の基準値	
高血圧症	
脳血管疾患の症状	
脳出血	
クモ膜下出血	
脳梗塞	
低血糖	
糖尿病	
尿ケトン体	
2型糖尿病	
エネルギー摂取量の算出	
自己採血	
メタボリックシンドローム	
動脈硬化	
b がん	
練習問題	163
がん対策基本法	
悪性腫瘍	
発がん因子	
診断と告知	
がん治療	
放射線量の単位	
QOL	
緩和ケア	
c 感染症	
練習問題	167
飛沫感染	
インフルエンザ	
MRSA	
溶血性尿毒症症候群	
ウイルス感染症	
感染症の潜伏期間	
肝炎の感染経路	
感染経路	
ガフキー号数	
日和見感染	
コプリック斑	
水痘	
感冒	

かぜ症候群	
d 精神疾患	
練習問題	173
抑うつ状態	
うつ病	
統合失調症の症状	
アルコール離脱症状	
アルコール依存症	
神経性食欲不振症	
神経症性障害	
PTSD	
e 小児の疾患	
練習問題	177
気管支喘息	
喘息発作時の対応	
小児感染症	
乳幼児突然死症候群	
先天性疾患	
先天異常	
先天異常と症状	
f 高齢者の疾患	
練習問題	181
認知症	
高齢者の骨折	
骨粗鬆症	
骨粗鬆症の生活指導	
C. 基本的な臨床検査値の評価	182
a 血液学検査	
b 血液生化学検査	
c 免疫血清学検査	
d 尿検査	
練習問題	183
血液生化学検査	
血液検査	
急性炎症	
腫瘍マーカー	
12 薬物の作用とその管理	184
A. 主な薬物の作用と副作用(有害事象)	184
a 抗感染症薬	
練習問題	185
抗菌薬	
ペニシリン	
MRSAに有効な薬剤	
難聴をきたす薬剤	
抗菌薬の副作用	
b 抗癌薬	
練習問題	187
抗ウイルス薬	
骨髄抑制	
抗がん薬の副作用	
c 強心薬、抗不整脈薬	
d 狭心症治療薬	
練習問題	189
ジギタリスの作用と副作用	
ジギタリスの有害作用	
狭心症発作	
ニトログリセリンの使用法	
目標Ⅲ 確認テスト	208

目標Ⅳ 看護技術に関する基本的な知識を問う

13 看護における基本技術	214
A. コミュニケーション	214
a 言語的コミュニケーション	

ニトログリセリンの作用	
ニトログリセリンの副作用	
e 抗血栓薬	
f 降圧薬、昇圧薬	
練習問題	191
β遮断薬	
転倒・転落を招く薬剤	
g 利尿薬	
h 消化性潰瘍治療薬	
練習問題	193
昇圧薬	
利尿薬の副作用	
利尿薬と強心薬	
i 下剤	
j 抗アレルギー薬	
k 副腎皮質ステロイド薬	
練習問題	195
副腎皮質ステロイド薬	
ステロイド薬の有害作用	
満月様顔貌	
l 糖尿病治療薬	
練習問題	197
副腎皮質ステロイド薬	
インスリン注射	
インスリン製剤の単位	
低血糖を引き起こす薬剤	
m 中枢神経作用薬	
n 麻薬	
練習問題	199
中枢神経作用薬	
抗うつ薬の副作用	
麻薬性鎮痛薬	
モルヒネの副作用	
貼付剤	
o 消炎鎮痛薬	
練習問題	201
消炎鎮痛薬	
抗血小板作用と抗炎症作用のある薬剤	
B. 薬物の管理	202
a 禁忌	
b 保存方法	
練習問題	203
禁忌	
手術前に中止する薬剤	
カリウム製剤	
医薬品の禁忌情報	
c 薬理効果に影響する要因	
練習問題	205
劇薬の表示	
毒薬の表示	
医薬品の保管	
血液製剤の保存方法	
赤血球製剤の保存	
血中濃度の確認が必要な薬剤	
薬物の有害作用の予測	
ワルファリン	
薬理効果に影響する因子	
b 非言語的コミュニケーション	
c 面接技法	
練習問題	215
コミュニケーション	

臥床患者との面接 面接技法 開かれた質問	216
B. 看護過程	216
a 情報収集、アセスメント	
b 計画立案	
c 実施	
d 評価	
練習問題	217
主観的情報	
看護過程	
看護計画	
e 記録方式	
練習問題	219
看護上の問題	
看護記録の取り扱い	
看護記録の意義	
看護記録の内容	
C. フィジカルアセスメント	220
a バイタルサインの測定	
練習問題	221
体温測定	
口腔温測定	
腋窩での体温測定	
呼吸のパターン	
脈拍測定	
学童期の脈拍数	
乳児のバイタルサイン測定	
マンシュートの幅	
血圧測定	
バイタルサイン	
b 意識レベルの評価	
練習問題	227
意識レベルの観察	
意識レベルの評価	
ジャパン・コマ・スケール	
c 呼吸音聴取	
d 腸蠕動音聴取	
練習問題	229
呼吸音の消失	
呼吸音の聴診	
異常な呼吸音	
心音の聴取	
e 運動機能の観察	
練習問題	231
腸蠕動音の評価	
関節可動域	
良肢位	
徒手筋力テスト	
徒手筋力測定	
14 日常生活援助技術	232
A. 食事	232
a 食事の環境整備、食事介助	
b 誤嚥の予防	
練習問題	233
誤嚥	
嚥下障害患者の食事	
嚥下障害患者の食事介助	
嚥下障害	
誤嚥防止	
臥床患者の食事介助	
B. 排泄	234
a 床上排泄	
b 導尿	
c 洗腸	
練習問題	235
床上排泄	
男性・女性の導尿	

男性の導尿	
膀胱留置カテーテル	
浣腸液の温度	
d 摘便	
e 失禁のケア	
練習問題	237
浣腸液	
浣腸時の体位	
グリセリン浣腸	
尿失禁	
骨盤底筋訓練	
C. 活動と休息	238
a 体位、体位変換	
b 運動	
練習問題	239
体位	
c 移動、移送	
d ボディメカニクス	
練習問題	241
車椅子による移送	
ストレッチャーによる移送	
ボディメカニクス	
e 廃用症候群の予防	
f 睡眠	
練習問題	243
ボディメカニクス	
長期臥床	
廃用症候群	
廃用症候群の予防	
レム睡眠	
睡眠	
D. 清潔	246
a 入浴	
b 清拭	
c 口腔ケア	
練習問題	247
入浴の作用	
入浴の援助	
清拭	
口腔ケア	
d 洗髪	
e 部分浴	
f 陰部洗浄	
g 整容	
h 寝衣交換	
練習問題	249
洗髪の援助	
足浴	
陰部洗浄	
爪のケア	
片麻痺患者の寝衣交換	
持続点滴患者の寝衣交換	
15 患者の安全・安楽を守る看護技術	250
A. 療養環境	250
a 病室環境	
b 共有スペース	
c 居住スペース	
練習問題	251
環境に応じた照度	
病室環境	
病床環境の規定	
居住スペース	
B. 医療安全対策	252
a 転倒・転落の防止	
b 誤薬の防止	
c 患者誤認の防止	
練習問題	253
転倒・転落の防止	

高齢者の安全な住環境	
誤薬防止	
患者の誤認予防	
d 誤嚥・窒息の防止	
e 情報伝達と共有・管理	
練習問題	255
情報伝達と共有・管理	
ヒューマンエラーによる医療事故の防止	
セーフティマネジメント	
インシデントレポート	
C. 感染防止対策	256
a 標準予防策〈スタンダードプリコーション〉	
b 手洗い	
練習問題	257
感染制御チーム	
スタンダードプリコーションの目的	
スタンダードプリコーションの対象	
標準予防策	
空気感染の防護用具	
抗菌作用の保持	
c 無菌操作	
練習問題	259
滅菌手袋の装着	
無菌操作	
滅菌物の取り扱い	
d 滅菌と消毒	
e 針刺し・切創の防止	
f 感染性廃棄物の取り扱い	
練習問題	261
無菌操作	
オートクレーブ	
消毒薬	
針刺し事故による感染	
感染性廃棄物	
バイオハザードマーク	
16 診療に伴う看護技術	262
A. 栄養補給	262
a 経管・経腸栄養法	
b 経静脈栄養法	
練習問題	263
経鼻胃チューブ	
経鼻経管栄養法	
経腸栄養剤の副作用（有害事象）	
鼻孔から噴門までの長さ	
中心静脈栄養法	
中心静脈カテーテルの挿入	
B. 薬物療法	264
a 与薬方法	
練習問題	265
服薬の指示	
与薬方法	
薬効発現	
薬液量の計算	
b 薬効・副作用（有害事象）の観察	
練習問題	267
注射針の太さの単位	
薬効発現速度	
注射法	
皮下注射	
注射液	
C. 輸液・輸血管理	268
a 刺入部位の観察	
b 輸液ポンプ、シリンジポンプ	
c 点滴静脈内注射	
d 輸血	
練習問題	269
血管外漏出	
点滴静脈内注射	

輸液ポンプ	
滴下数	
濃度計算	
D. 採血	270
a 穿刺部位	
b 採血方法	
練習問題	271
採血部位	
採血と注射針	
取血部位	
採血	
E. 電法	272
a 電法の種類と適応	
b 温電法	
c 冷電法	
練習問題	273
湿性電法	
温電法	
冷電法	
F. 呼吸管理	274
a 酸素療法の原則	
b 酸素ボンベ	
c 酸素流量計	
練習問題	275
酸素吸入中の禁止行為	
酸素ボンベ	
酸素ボンベ内の残量確認	
酸素ボンベの保管方法	
酸素投与	
d 鼻腔カニューラ	
e 酸素マスク	
f ネプライザー	
練習問題	277
酸素療法	
酸素吸入濃度	
ベンチュリーマスク	
吸入器の噴霧粒径	
ネプライザー	
g 口腔内・鼻腔内吸引	
h 気管内吸引	
i 体位ドレナージ	
練習問題	279
鼻腔内吸引	
気管内吸引	
体位ドレナージ	
G. 救命救急処置	280
a 気道の確保	
b 人工呼吸	
c 胸骨圧迫	
練習問題	281
意識障害者の救命救急処置	
救命救急処置	
胸骨圧迫心臓マッサージ	
胸骨圧迫	
d 直流除細動器	
e 自動体外式除細動器〈AED〉	
練習問題	283
直流除細動器	
AED	
AEDの使用	
一次救命処置	
f 止血法	
g 体温管理	
練習問題	285
動脈性外出血の止血	
止血法	
止血点	
h トリアージ	
練習問題	287



看護の社会的側面および 倫理的側面について 基本的な知識を問う

contents	page
1 健康の定義と理解	2
2 健康に影響する要因	14
3 看護で活用する社会保障	22
4 看護における倫理	30
5 看護に関わる基本的法律	34

A 健康の定義

解答

1 社会的

a 世界保健機関〈WHO〉の定義
 WHO 憲章には、「健康とは、肉体的、精神的及び **[1]** に良好である状態であり、単に疾病又は虚弱の存在しないことではない」と定義している。

b ウェルネスの概念
 ウェルネスとは、疾病予防さらには健康増進に取り組むなど、より高いレベルの生活機能に向けた絶えまない変革のプロセスである。

B 健康に関する指標①

a 総人口
 わが国の総人口（平成30年）は **[1]** 人である。
 総人口の内訳は、男性6153万2000人、女性 **[2]** 人で女性のほうが多い。
 男女別に年齢ごとの人口をグラフで表したものを **[3]** という。

b 年齢別人口 ▶ 国試によく出る
 平成30年の年齢別人口の内訳は下表のとおりである。

年齢区分	定義	割合	人口
年少人口	0～ [1] 歳	12.2%	1542万人
生産年齢人口	[2] 歳～ [3] 歳	59.7%	7545万1000人
老年人口	[4] 歳以上	[5] %	3557万8000人

年齢別人口のうち、増加傾向にあるのは **[6]** 人口である。

c 労働人口
 [1] とは、15歳以上の就業者数に完全失業者数を加えた人口のことで、平成30年では **[2]** 万人である。
 わが国の完全失業者数（平成30年）は166万人で、完全失業率は **[3]** %である。

d 将来推計人口
 将来推計人口は下表のとおりである。

年次	[1] 人口	[2] 人口	[3] 人口
2025年	11.5%	58.5%	30.0%
2045年	10.7%	52.5%	36.8%
2065年	10.2%	51.4%	38.4%

国立社会保障・人口問題研究所（平成29年推計）

1 1億2644万

2 6491万1000

3 人口ピラミッド

1 14

2 15 3 64

4 65 5 28.1

6 老年

1 労働力人口

2 6830

3 2.4

1 年少 2 生産年齢

3 老年

「年齢別人口」は
国試の頻出項目だよ！

[3] [4] はまとめて解いてから
解答・解説を確認しよう！



世界保健機関
 (WHO) の定義

♥ **必修** 107回 PM1

- [1]** 世界保健機関〈WHO〉が定義する健康について正しいのはどれか。
- 単に病気や虚弱のない状態である。
 - 国家に頼らず個人の努力で獲得するものである。
 - 肉体的、精神的及び社会的に満たされた状態である。
 - 経済的もしくは社会的な条件で差別が生じるものである。

総人口

♥ **必修** 102回 AM1 改

- [1]** 日本の平成30年（2018年）における総人口に最も近いのはどれか。
- 1億人
 - 1億3千万人
 - 1億6千万人
 - 1億9千万人

人口年齢区分

♥ **必修** 104回 PM7

- [2]** 人口年齢区分における15歳から64歳までの年齢区分はどれか。
- 従属人口
 - 年少人口
 - 老年人口
 - 生産年齢人口

生産年齢人口

♥ **必修** 105回 AM1 改

- [3]** 日本の平成30年（2018年）の生産年齢人口の構成割合に最も近いのはどれか。
- 50%
 - 60%
 - 70%
 - 80%

老年人口

♥ **必修** 94回 AM1 改、96回 AM1 改、103回追 AM1 改、108回 PM1 改

- [4]** 平成30年における我が国の老年人口の構成割合はどれか。
- 8.1%
 - 18.1%
 - 28.1%
 - 38.1%

将来推計人口

♥ **必修** 104回 AM1 改

- [5]** 日本の将来推計人口で2025年の65歳以上人口が総人口に占める割合に最も近いのはどれか。
- 15%
 - 30%
 - 45%
 - 60%

解答・解説

- [1]** **3** 1：単に疾病または病弱の存在しないことだけではない。2：健康は、個人の努力だけでは獲得できない。地域や文化的背景の影響を受ける。4：到達しうる最高基準の健康を享有することは、「人種、宗教、政治的信念または経済的もしくは社会的条件の差別なしに万人の有する基本的権利の一つである」としている。

- [1]** **2** 平成30（2018）年の日本の総人口は1億2644万人である。
[2] **4** 2：年少人口は0～14歳、3：老年人口は65歳以上、4：生産年齢人口は15～64歳である。
[3] **2** **[4]** **3** 平成30（2018）年のわが国における生産年齢人口は7545万1000人（59.7%）で、老年人口は3557万8000人（28.1%）である。
[5] **2** 日本の将来推計人口では、2025年の65歳以上の人口（老年人口）は総人口の30.0%を占めると推計されている。

I 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う

B 健康に関する指標②

解答

1 核家族

2 三世代

3 48.9

4 2.44

5 核家族

6 夫婦と未婚の子のみ

7 48.9 8 夫婦

1 減少

1 出生率

2 7.4

3 合計特殊出生率

4 純再生産率

5 11.42

6 30.7

7 粗死亡率

8 11.0

e 世帯数

▶ 国試によく出る

- わが国の世帯数（平成30年）は5099万1000世帯であり、[1] 世帯が全世帯の60.4%を占めている。[2] 世帯は減少傾向にある。また全世帯の [3] %は65歳以上の高齢者のいる世帯である。
- わが国の平均世帯人員（平成30年）は [4] で、減少の傾向にある。
- 世帯数は、[5] 世帯、単独世帯、三世代世帯の順に多い。
- 核家族世帯は「夫婦のみ」「夫婦と未婚の子のみ」「ひとり親と未婚の子のみ」の世帯に分けられ、このうち [6] の世帯が最も多い。
- 全世帯の [7] %は65歳以上の高齢者のいる世帯であり、このうち最も多いのは [8] のみの世帯で、次いで単独世帯（独居世帯）となっている。（平成30年国民生活基礎調査）

f 婚姻、家族形態

- わが国の婚姻件数（平成30年）は58万6438組で、婚姻率は4.7（人口1000対）で前年に比べ0.2ポイント低下した。
- 離婚件数は平成3～14年まで増加傾向となっていた。その後減少傾向にあるが、平成30年は20万8333組で、前年より3929組 [1] 増加/減少した。

g 出生と死亡の動向

▶ 国試によく出る

- 人口1000人に対する出生数の割合を [1] という。
- わが国の出生率（平成30年）は [2] 、出生数は91万8397人である。
- 1人の女性（15～49歳）が一生の間に生む平均的な子どもの数を表したものを [3] といい、2.1を下回ると将来人口が減少する。
- 1人の女性が一生の間に生む平均的な女兒数のみを表したものを総再生産率といい、この女兒が妊娠可能な年齢を過ぎるまでの死亡を見込んだものを [4] という。この値が1.0を下回ると将来人口が減少する。
- 出生の動向をまとめると以下のとおりである。

年次	出生数	出生率	合計特殊出生率	純再生産率
昭和25年	234万人	28.1	3.65	1.50
昭和45年	193万人	18.8	2.13	1.00
平成2年	122万人	10.0	1.54	0.74
平成17年	106万人	8.4	1.26（過去最低）	0.61
平成25年	103万人	8.2	1.43	0.69
平成30年	92万人	7.4	[5]	...

- 第1子出生時の母親の平均年齢（平成29年）は [6] 歳、結婚生活後第1子出生までの平均期間（平成29年）は2.43年で、延長傾向にある。
- 出生時の平均体重・身長（平成29年）は、男児3.05kg・49.2cm、女児2.96kg・48.7cmであった。
- 人口1000人に対する死亡数の割合を [7] （単に「死亡率」ということもある）といい、高齢社会では増加する。
- わが国の死亡数（平成30年）は136万2482人、粗死亡率は [8] で前年（平成29年）を上回った。

「世帯数」「出生と死亡の動向」は国試の頻出項目だよ！
「世帯数」はp.69の問題もあわせて解いてみてね。

【9】【10】と【11】【12】はそれぞれまとめて解いてみてね。



□□□ 世帯構造数

必修 105回 AM8 改

- 【6】** 日本の平成30年（2018年）における家族の世帯構造で最も少ないのはどれか。
1. 単独世帯
 2. 三世代世帯
 3. 夫婦のみの世帯
 4. 夫婦と未婚の子のみの世帯

□□□ 65歳以上の者のいる世帯

必修 102回 PM9 改

- 【7】** 平成30年（2018年）国民生活基礎調査で、65歳以上の者のいる世帯の全世帯に占める割合はどれか。
1. 28.9%
 2. 38.9%
 3. 48.9%
 4. 58.9%

□□□ 65歳以上の者のいる世帯

必修 99回 AM9 改

- 【8】** 我が国の平成30年の65歳以上の者のいる世帯のうち単独世帯（ひとり暮らし）の占める割合はどれか。
1. 約7%
 2. 約17%
 3. 約27%
 4. 約37%

□□□ 出生の動向

予想

必修 103回 AM1 改

- 【9】** 平成30年（2018年）におけるわが国の出生率はどれか。
1. 6.4
 2. 7.4
 3. 8.4
 4. 9.4

- 【10】** 日本の平成30年（2018年）における出生数に最も近いのはどれか。
1. 42万人
 2. 92万人
 3. 142万人
 4. 192万人

□□□ 15～49歳女性の年齢別出生率の総和

一般 96回 AM36

- 【11】** 15歳から49歳までの女性の年齢別出生率の総和はどれか。
1. 総再生産率
 2. 純再生産率
 3. 粗出生率
 4. 合計特殊出生率

□□□ 合計特殊出生率

必修 98回 AM1 改、100回 AM1 改、104回 PM1 改

- 【12】** 日本の平成30年（2018年）における合計特殊出生率はどれか。
1. 0.92
 2. 1.42
 3. 1.92
 4. 2.42

□□□ 年齢階級別出生率

必修 102回 AM21 改

- 【13】** 日本の平成30年（2018年）における母の年齢階級別出生率が最も高いのはどれか。
1. 20～24歳
 2. 25～29歳
 3. 30～34歳
 4. 35～39歳
 5. 40～44歳

解答・解説

- 【6】** 2 平成30年の世帯構造は、夫婦と未婚の子のみの世帯（29.1%）が最も多く、単独世帯（27.7%）、夫婦のみの世帯（24.1%）と続く。三世代世帯は5.3%で最も少ない。
- 【7】** 3 平成30（2018）年の65歳以上の者のいる世帯数は約2493万世帯で、全世帯の48.9%を占めている。
- 【8】** 3 平成30年の65歳以上の者のいる世帯のうち、単独世帯の占める割合は27.4%で、夫婦のみの世帯（32.3%）に次いで多い。
- 【9】【10】** 2 平成30年のわが国の出生数は91万8397人、出生率は7.4である。
- 【11】** 4 **【12】** 2 合計特殊出生率は、ある年次の15～49歳の女性の年齢別出生率の合計（合計特殊出生率 = $\frac{\text{母親の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}}$ の15～49歳までの合計）である。平成30年のわが国の合計特殊出生率は1.42で、前年（平成29年）より0.01下回った。
- 【13】** 3 平成30年の母の年齢階級別出生率は、30～34歳が最も高く、25～29歳、35～39歳と続く。

B 健康に関する指標③

解答

9 上昇

10 年齢調整死亡率

11 低下

12 新生児・乳児

13 50

1 悪性新生物

2 心疾患

3 脳血管疾患

4 肺炎

5 悪性新生物

6 自殺

7 肺 8 大腸

9 胃 10 肺

11 大腸 12 脾

g 出生と死亡の動向(つづき) **国試によく出る**

- わが国の粗死亡率は、人口の高齢化の影響により、昭和58年頃から緩やかな **9**] 傾向を示している。
- 年齢構成の異なる集団の死亡状況を基準人口で調整した割合を **10**] といい、値が低いほど死亡状況の改善を表す指標となる。
- わが国の年齢調整死亡率(平成29年)は男4.7、女2.5で年々 **11**] 傾向にある。
- わが国の年齢別死亡率では、身体機能の未熟さなどから **12**] の死亡率が高く、幼児期、青少年期から壮年期にかけて低いが、40歳以降では高齢になるほど高くなる。
- 死亡総数に占める **13**] 歳以上の死亡割合のことを PMI (proportional mortality indicator) といい、先進諸国(高齢社会)では高率、発展途上国(衛生状態の整わない環境)では低率となる。

h 死因の概要 **国試によく出る**

わが国の主要死因順位(平成30年)は以下のとおりである。

死因順位	死 因	死亡数	死亡率 (人口10万対)
第1位	1]	37万4000人	300.7
第2位	2]	20万8000人	167.6
第3位	老 衰	11万人	88.2
第4位	3]	10万8000人	87.1
第5位	4]	9万5000人	76.2
第6位	不慮の事故	4万1000人	33.2
第7位	誤嚥性肺炎	3万8000人	31.0
第8位	腎不全	2万6000人	21.0
第9位	血管性及び詳細不明の認知症	2万1000人	16.5
第10位	自 殺	2万人	16.1

「脳血管疾患」は、従来、「悪性新生物」「心疾患」とともに日本人の3大死因であった。平成23年に「脳血管疾患」に代わってそれまで第4位であった「肺炎」が第3位となった。肺炎による死亡者のほとんどは65歳以上の高齢者である。「脳血管疾患」は平成30年には「老衰」に次ぎ第4位となっている。

年齢別の死因第1位(平成30年)は下表のとおりである。

年齢区分	第1位の死因	年齢区分	第1位の死因
0~4歳	先天奇形、変形および染色体異常	15~39歳	6]
		40~89歳	5]
5~9歳	5]	90~94歳	心疾患
10~14歳	5]	95歳以上	老衰

悪性新生物の部位別死亡数の順位(平成30年)は男女別に下表のとおりである。

男 性	部位別悪性新生物	女 性	部位別悪性新生物
第1位	7] がん	第1位	8] がん
第2位	9] がん	第2位	10] がん
第3位	11] がん	第3位	12] がん



死亡数

死因順位

死因順位

死因順位

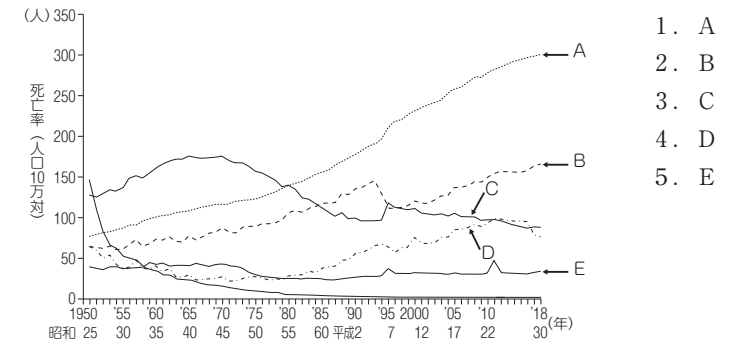
部位別悪性新生物死亡数

必修 106回 PM1 改

【14】 日本の平成30年(2018年)の死亡数はどれか。
1. 約56万人 2. 約96万人 3. 約136万人 4. 約176万人

必修 101回 AM23 改

【15】 日本の主要死因別にみた死亡率の推移を図に示す。悪性新生物 malignant neoplasm の推移はどれか。



- 1. A
- 2. B
- 3. C
- 4. D
- 5. E

必修 97回 AM1 改、99回 AM1 改、103回 PM1 改

【16】 日本の平成30年(2018年)における主要死因別にみた死亡率が最も高いのはどれか。
1. 肺炎 pneumonia 2. 心疾患 heart disease
3. 悪性新生物 malignant neoplasm 4. 脳血管疾患 cerebrovascular disease

必修 109回 AM1 改

【17】 平成30年(2018年)の人口動態統計における主要死因別の死亡率で心疾患 heart disease の順位はどれか。
1. 1位 2. 2位 3. 3位 4. 4位

必修 95回 AM1 改、108回 AM2改

【18】 日本における平成30年(2018年)の部位別にみた悪性新生物の死亡数で、男性で最も多い部位はどれか。
1. 胃 2. 肝及び肝内胆管
3. 気管、気管支及び肺 4. 結腸と直腸 S 状結腸移行部及び直腸

解答・解説

- 【14】 3** 平成30年のわが国の死亡数はおよそ136万人、粗死亡率は11.0である。
- 【15】 1** Bは心疾患(第2位)、Cは脳血管疾患(第4位)、Dは肺炎(第5位)、Eは不慮の事故(第6位)を示している。
- 【16】 3** 昭和56年以来、悪性新生物はわが国の死因順位の第1位となっている。
- 【17】 2** 平成30(2018)年の死亡順位は、第1位悪性新生物、第2位心疾患、第3位老衰である。
- 【18】 3** わが国の部位別の悪性新生物死亡数(平成30年)の第1位は、男性では肺、女性では大腸となっている。

I 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う

B 健康に関する指標④

【解答】

13 低下

14 微減

15 心不全

16 脳梗塞

17 脳内出血

18 高齢者

19 転倒・転落

20 男性

21 健康問題

1 平均余命

2 平均寿命

3 81.25

4 87.32

5 健康寿命

h 死因の概要(つづき) ▶ 国試によく出る

- 部位別にみた悪性新生物の年齢調整死亡率のうち、胃がんは【13】傾向、大腸がんは上昇し近年は横ばい、肺がんは近年は【14】傾向、子宮がんはほぼ横ばいである。
- 第2位の死因である心疾患のうち、最も多いものは【15】である。
- 第4位の死因である脳血管疾患では、【16】が最も多く、次いで【17】となっている。
- 第5位の死因である肺炎の年齢階級別の死亡率は、【18】で高くなっている。
- 第6位の死因である不慮の事故の内訳(全年齢階級)では、第1位が【19】(24.0%)、第2位が窒息(22.8%)となっている。
- 第10位の死因である自殺者の性別では【20】男性/女性)のほうが約2倍多く、動機は【21】が最も多く(1万423人)、次いで経済・生活問題(3432人)が続く。(警察庁「平成30年中における自殺の概要」)

i 平均余命、平均寿命

- ある年齢にある人が、死亡状況が現在と変わらないと仮定して、その後何年生存するかを期待値を【1】という。
- 0歳(出生時)の平均余命を【2】という。
- わが国の平均寿命(平成30年)は男性が【3】年(前年+0.16年)、女性が【4】年(前年+0.06年)で、男女差は6.07年である。
- 平均寿命から、疾病や寝たきりなどの不健康な期間を差し引いた寿命を【5】といい、WHO(世界保健機関)が提唱した。日本は男性72.14年、女性74.79年である(平成28年)。

□□□

年齢別死因順位

必修 100回 AM6 改、102回 AM8 改

- 【19】 日本における平成30年(2018年)の10~14歳の子どもの死因で最も多いのはどれか。
- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| 1. 肺炎 pneumonia | 2. 心疾患 heart disease |
| 3. 不慮の事故 accidents | 4. 悪性新生物 malignant neoplasm |

□□□

悪性新生物死亡率

必修 96回 AM3 改

- 【20】 我が国の平成30年(2018年)の死亡総数に対する悪性新生物の割合に最も近いのはどれか。
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 10% | 2. 20% | 3. 30% | 4. 40% |
|--------|--------|--------|--------|

□□□

自殺の動機

必修 104回 PM2 改

- 【21】 警察庁の「平成30年(2018年)中における自殺の状況」の自殺者の原因・動機のうち最も多いのはどれか。
- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 学校問題 | 2. 家庭問題 | 3. 勤務問題 | 4. 健康問題 |
|---------|---------|---------|---------|

□□□

平均寿命

必修 107回 AM1

- 【22】 平均寿命で正しいのはどれか。
- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 0歳の平均余命である。 | 2. 20歳の平均余命である。 |
| 3. 60歳の平均余命である。 | 4. 死亡者の平均年齢である。 |

□□□

平均寿命

必修 103回 AM2

- 【23】 平均寿命は【 】歳の平均余命である。【 】に入るのはどれか。
- | | | | |
|------|------|-------|-------|
| 1. 0 | 2. 5 | 3. 10 | 4. 20 |
|------|------|-------|-------|

□□□

平均寿命

必修 101回 AM1 改、105回 PM1 改

必修 97回 AM2 改、102回 PM1 改

- 【24】 日本の平成30年(2018年)における男性の平均寿命はどれか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 70.25年 | 2. 75.25年 |
| 3. 81.25年 | 4. 85.25年 |

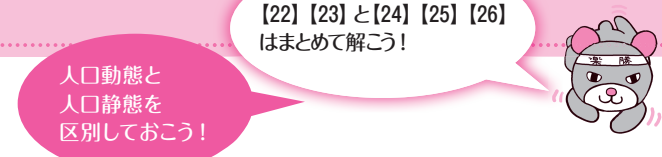
- 【25】 日本の平成30年(2018年)における女性の平均寿命はどれか。
- | | |
|-----------|-----------|
| 1. 77.32年 | 2. 79.32年 |
| 3. 87.32年 | 4. 89.32年 |

□□□

平均寿命

必修 109回 PM1 改

- 【26】 平成30年(2018年)の日本における簡易生命表で女性の平均寿命に最も近いのはどれか。
- | | | | |
|--------|--------|--------|--------|
| 1. 77年 | 2. 82年 | 3. 87年 | 4. 92年 |
|--------|--------|--------|--------|



解答・解説

- 【19】 4 平成30年の10~14歳の死因で最も多いのは「悪性新生物」、次いで「自殺」である。
- 【20】 3 死亡総数に対する悪性新生物の割合(平成30年)は27.4%である。
- 【21】 4 自殺の原因・動機が明らかなものでは、「健康問題」(1万423人)が最も多く、次いで「経済・生活問題」が多い。
- 【22】 【23】 1 平均寿命とは、0歳の平均余命(その年齢の人が平均してあと何年生きられるか)をいう。
- 【24】 【25】 3 平成30年の平均寿命は男性が81.25年、女性が87.32年で、男女とも、前年より長くなっている。
- 【26】 3 選択肢で最も近いのは87歳である。

I 看護の社会的側面および倫理的側面について基本的な知識を問う

C 受療状況①

「受療行動」と「受療率」は調査が違うから注意してね



解答

- 1 有訴者
- 2 305.9

3 腰痛

- 1 有病率
- 2 罹患率
- 3 慢性
- 4 罹患率

- 1 満足
- 2 不満

3 病院

4 受療

- 5 1.0
- 6 5.7
- 7 90

8 精神及び行動の障害

- 9 循環器系の疾患
- 10 消化器系の疾患

a 有訴者の状況

- 病気やけがなどで自覚症状のある者のことを【1】という。
- 人口1000人に対する有訴者の割合（有訴者率、平成28年）は【2】であり、全国民の約3割、70歳以上では約半数が有訴者である。
- 自覚症状で最も多いのは男性では【3】、女性では肩こりである。（平成28年国民生活基礎調査）

b 有病率、罹患率

- ある一時点において疾病を有している人の割合を【1】という。
- 特定の期間内に新たに生じた疾病数の割合を【2】という。
- 【3】の経過をたどる疾患では、有病率は高くなる。
- 【4】は、疾病の経時的な変化のモニタリングに役立つ。

c 受療行動、受療率

● 受療行動（平成29年受療行動調査）

- 外来患者の診察までの待ち時間、診察時間の上位は下表のとおりである。

	第1位	第2位
診察までの待ち時間	15分未満 (27.1%)	15分以上30分未満 (22.9%)
診察時間	5分以上10分未満 (38.3%)	5分未満 (28.2%)

- 病院に対する全体的な満足度（満足・不満）は下表のとおりとなっている。

満足度	外来患者	入院患者
【1】	59.3%	67.8%
【2】	4.3%	4.3%

● 受療率（平成29年患者調査）

- 全国の医療施設で受療した推計患者数は、入院患者131万人、外来患者719万人であった。
- 患者数の割合を施設別にみると、入院患者では【3】が最も多く（97.0%）、外来患者では一般診療所が最も多い（58.6%）。
- 人口10万人に対する推計患者数を【4】率という。
- 入院受療率は1036で、人口の約【5】%に当たる。外来受療率は5675で、人口の約【6】%に当たる。
- 受療率を性・年齢階級別にみると、入院は男女共に【7】歳以上が最も高く、外来は男女共に80～84歳が最も高くなっている。
- 入院患者の傷病分類別受療率では、第1位が【8】、第2位が【9】、第3位が新生物である。
- 外来患者の傷病分類別受療率では、第1位が【10】、第2位が循環器系の疾患、第3位が筋骨格系及び結合組織の疾患である。

□□□

有訴者率

必修 106回 AM1

- 【1】平成28年（2016年）の国民生活基礎調査による有訴者率（人口千対）で正しいのはどれか。
1. 5.9 2. 105.9 3. 305.9 4. 505.9

□□□

有訴者の症状

必修 109回 AM25

- 【2】平成28年（2016年）の国民生活基礎調査で、男性の有訴者の症状が最も多いのはどれか。
1. 腰痛 2. もの忘れ 3. 体がだるい
4. 目のかすみ 5. 手足の関節が痛む

□□□

児童の疾病・異常被患率

必修 97回 AM7 改

- 【3】我が国の平成30年（2018年）の児童の疾病・異常被患率で最も多いのはどれか。
1. う歯 2. 肥満傾向
3. 心電図異常 4. 裸眼視力1.0未満

□□□

入院受療率

予想

- 【4】平成29年（2017年）の入院受療率が最も高い年齢階級はどれか。
1. 5～9歳 2. 45～49歳 3. 75～79歳 4. 90歳以上

□□□

外来受療率

必修 103回追 PM2 改

- 【5】平成29年（2017年）の日本の男性における外来受療率が最も高い年齢階級はどれか。
1. 50～54歳 2. 60～64歳 3. 70～74歳 4. 80～84歳

□□□

外来受療率

予想

- 【6】平成29年（2017年）の傷病別外来受療率で最も高いのはどれか。
1. 循環器系の疾患 2. 精神及び行動の障害
3. 消化器系の疾患 4. 新生物

解答・解説

- 【1】3 平成28年「国民生活基礎調査」における有訴者率（人口千対）は305.9で、約3割の人が自覚症状を訴えている。
- 【2】1 平成28年「国民生活基礎調査」における有訴者率（人口千対）では、男性では「腰痛」が91.8で最も多く、次いで「肩こり」57.0、「せきやたんが出る」50.5と続く。女性では「肩こり」が117.5で最も高く、「腰痛」115.5、「手足の関節が痛む」70.2と続く。
- 【3】1 平成30年「学校保健統計調査（文部科学省）」によると、児童（小学校）の疾病・異常被患率ではう歯（むし歯）が最も多く45.3%である（高等学校では45.4%で第2位、中学校35.4%で第2位、幼稚園35.1%で第1位となっている）。児童において次いで多いのは、「裸眼視力1.0未満」34.1%である（高等学校、中学校では、「裸眼視力1.0未満」が第1位）。
- 【4】4 平成29（2017）年の患者調査によると、年齢階級別の入院受療率は90歳以上で最も高くなっている（人口10万対男性7433、女性7936）。
- 【5】4 平成29年の男性の年齢階級別外来受療率は、80～84歳が最も高く、85～89歳、75～79歳がそれに続く。一方、女性で最も外来受療料が高い年齢階級は、80～84歳であり、75～79歳がそれに続く。
- 【6】3 傷病分類別の外来受療率第1位は消化器系の疾患。このうち「歯肉炎及び歯周疾患」が最も多い。